

令和4年度食品ロス削減総合対策事業のうち食品ロス削減推進事業補助金
(寄附金付き未利用食品モデル構築事業)

寄附金付き未利用食品モデル構築事業

令和5年3月

株式会社 サンプラザ高知

目次

1. 事業の目的・内容
2. 寄附金付き未利用食品モデル概要
3. 寄附金付き未利用食品モデル実証実験
4. 寄付金贈呈式
5. 数値検証
6. まとめ

1. 事業の目的・内容

【事業の目的】

サンプラザが運営するスーパーマーケットで販売する商品の一部を対象に寄付金を設定し、フードバンクなどの食事の確保が困難な方を支援する団体に寄付する仕組みを構築する。また、この活動を食品業界、流通業界全体の課題として取り組むため、大手食品メーカー（NB メーカー）や地元有力メーカー（LB メーカー）からの協力体制を確立させる。これにより、食品ロス削減と生活困窮者支援の2つの社会的課題を解決する仕組み構築を実施する。

【事業内容】

1、全体フレーム

- 1) 寄付金つき未利用食品販売モデルとして寄付金つき商品の販売を実施する
- 2) 消費者の食品ロス削減とフードバンク活動に対する認識や参画意識を醸成し、日常生活行動の変化を促す。
- 3) 本事業に参画する企業（サンプラザ、実証参画小売店ならびにメーカー）の従業員の食品ロス削減とフードバンク活動に対する認識や参画意識を醸成し、日常生活行動の変化を促す。
- 4) 寄付金つき商品の販売に合わせて、事前・事後検討会議を実施する
- 5) 寄付金つき商品の販売を通じて得られた情報を報告書として作成する
- 6) 寄付金つき未利用食品販売モデルを他府県企業へ働きかけ、情報交換・実施する。

①事業目標

寄附付き商品の販売活動により食品ロス（廃棄）を前年対比で10%削減する。

* 金額試算で約 700,000 円/月（10 月単月）

②実証・調査

1、寄付金つき未利用食品販売企画の実践（2022年10月予定）

- 1) 生鮮部門（鮮魚、精肉、青果）や惣菜部門、日配部門（豆腐・牛乳）、食品部門（加工食品や菓子）から食品ロスの多いカテゴリーや商品を対象とする。
また、生活必需品や地元商品も寄付つき商品の対象とする。
- 2) 寄付金は通常販売時、値引き販売時で設定する
対象商品が①1個販売につき1円、②値引き販売時1円の寄付金を設定する。
例：A商品が値引きで1個販売されると、①+②で2円の寄付金を設定する。
- 3) 食品ロス削減活動を生活者に浸透させるべく、広報活動・プレスリリースを実施する。新聞折り込みチラシ、テレビ・ラジオCM、自社ホームページSNSを予定。
店内では「ポスター」「パンフレット」「POP」などの消費者の視認率を高めるツールを準備する。
- 4) 寄付金つき商品の抽出（品目数）ならびに寄付金額の設定は社内検討会、メーカー様との内容を踏まえて決定する。

- 5) 寄付金つき未利用食品販売企画の実証検証は2022年10月から11月にかけてを予定し、10月末の段階で中間結果を出せる範囲内で公表する。取り組み日数は40日前後(1ヶ月半)から最長61日(2ヶ月)までを予定する。
- 6) 寄付先は主にフードバンク活動を行う団体とする。
- 7) CGCグループならびに東森氏推薦企業様の協力を得て、複数の都道府県で実施する。

2、事業成果・効果の検証方法

1) 寄付つき未利用食品販売キャンペーン結果検証

- ①対象商品の部門ごとの販売金額前年比検証
- ②キャンペーン期間中の店舗売上前年比との比較で対象商品購買意欲効果検証
- ③大手メーカー様、地元有力メーカー様の対象商品出荷実績前年比比較による効果検証(弊社前年比と競合他社・市場前年比比較)
- ④大手メーカー様、地元有力メーカー様への情報収集で課題と対策立案

2) 廃棄金額検証

- ①対象商品の部門ごとの廃棄金額前年比検証でキャンペーン効果検証
- ②全店全部門の廃棄金額前年比比較
- ③対象商品の中から選定された、廃棄金額の多い商品の廃棄金額前年比比較での効果検証

* 当該調査による数値については、取組の効果が検証できるよう寄附金付きで販売しない場合との比較が可能となるよう整理する

③検討会の開催

1、検討会の実施について

1) 企画検討社内会議の実施

企画立案(事前・事後検討会2回)と実践計画を策定する社内検討会議(経営会メンバー7回・全店店長会7回以上)の実施

2) NB メーカー、LB メーカーへの説明会(WEBの可能性あり)、個別説明の実施。

企画内容の説明と各メーカーの意見を集約し、企画内容への反映を検討する。

3) 事前・事後検討会議の実施

事前検討会：各メーカーの意見も踏まえ企画内容を説明し、委員の意見を聞き取った上で企画内容への反映を検討する。事後検討会：実施内容と数値結果を踏まえ、全国的な普及に当たっての課題や改善策の検討を行う。

4) 会議の出席者

①経営会メンバー

所属	氏名
役員	水田社長、笠原常務、田村常務、細川取締役
商品部	長山部長、
販売部	森田部長、野村店長
関連事業部他	中村部長、山崎部長
企画担当	東森

②メーカー

分野	氏名
NBメーカー	食品業界・日用品業界の大手メーカー様
LBメーカー	牛乳・豆腐・加工食品の製造メーカー様

③検討会メンバー

分野	氏名
役員	水田社長、笠原常務、田村常務、細川取締役
商品部	長山部長、
販売部	森田部長、野村店長
関連事業部他	中村部長、山崎部長
企画担当	東森
寄付先団体	主にフードバンク活動を行う団体とする
社会福祉	高知県社会福祉協議会担当者
行政	高知県庁職員
学校	高知県内の大学教員
学生	高知県内の大学生

5) スケジュール

開催時期及び回数	出席者数	検討内容	備考
2022年5月2回	経営会メンバー	実施概要検討	検討会
2022年5月2回	メーカー・BY	実施概要説明会	
2022年5月2回	全店店長・バイヤー	実施概要検討	
2022年6月2回	全店店長・バイヤー	実施概要説明	検討会
2022年7月2回	経営会メンバー	メーカー様実施内容検討	検討会
2022年7月1回	全店店長・バイヤー	実施内容検討	検討会
2022年8月1回	経営会メンバー	メーカー様実施内容検討	検討会
2022年8月1回	全店店長・バイヤー	実施方法検討	検討会
2022年9月1回	経営会メンバー	メーカー様実施内容確定	検討会
2022年9月2回	全店店長・バイヤー	実施方法検討	検討会
2022年11月1回	全店店長・バイヤー	全体結果報告	事後検討会
2022年12月1回	経営会メンバー	全体結果報告	事後検討会
2022年12月1回	検討会メンバー	全体結果報告	結果報告

2. 寄附金付き未利用食品モデル概要

1. 実施内容

①サンプラザ（本社所在地：高知県土佐市 展開店舗数 11 店舗）

- 1) スーパーマーケットの店内で販売している商品の中から、かつお刺身・かつおタタキ・牛乳・食パン・豆腐等の生活必需品や地元商品、高単価商品のいずれかに該当する商品を選定する（以下対象商品とする）
- 2) 対象商品を1個購入につき1円を寄付金とする
- 3) 対象商品の値引き商品（刺身の値引き後商品など）を1個販売に対し、更に1円を寄付するものとする（対象商品1個販売で1円寄付＋値引き商品なら更に1円＝計2円となる）
- 4) 上記販売活動を「食品ロスをなくそう！寄付付き商品販売キャンペーン」とする
- 5) 「食品ロスをなくそう！寄付付き商品販売キャンペーン」をスーパーマーケット店内での告知や、サンプラザが展開するホームページやInstagram（SNS）で公表する

6) 実施期間

2022年10月 1日～11月13日（44日間）

7) 実施店舗

サンプラザ全店 11 店舗

8) 対象商品

全287品：かつお刺身・かつおタタキ・牛乳・食パン・豆腐等の生活必需品や
高知県内メーカー様の商品を数多く選定 * 別紙参照

8) 寄付先団体

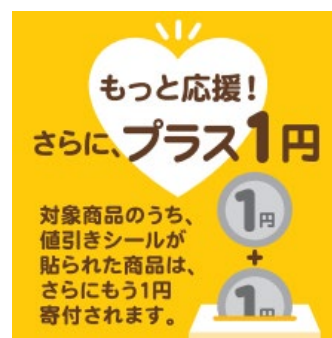
①フードバンク高知 ②（社福）高知県社会福祉協議会 ③NPO 法人こうち食支援ネット

9) 告知時使用販促物

①店内パンフレット



②店内使用ポッター



③対象商品の値引き商品説明販促物



②株式会社三善（本社所在地：静岡県掛川市 展開店舗数1店舗）

- 1) スーパーマーケットの店内で販売している商品の中から、刺身・寿司・牛乳・豆腐・惣菜等の生活必需品や地元商品、高単価商品のいずれかに該当する商品を選定する（以下対象商品とする）
- 2) 対象商品を1個購入につき1円～10円を寄付金とする。
- 3) 対象商品の値引き商品（寿司の値引き後商品など）を1個販売に対し、更に1円を寄付するものとする（寄付金1円の場合の例：対象商品1個販売で1円寄付＋値引き商品なら更に1円＝計2円となる。寄付金10円の場合は寄付金を1円加算して11円とする。）
- 4) 上記販売活動を「食品ロスをなくそう！寄付付き商品販売キャンペーン」とする。
- 5) 「食品ロスをなくそう！寄付付き商品販売キャンペーン」をスーパーマーケット店内での告知や、三善が展開するホームページやインスタグラム（SNS）や新聞折り込みで広報する。
- 6) 実施期間
2022年10月1日～11月30日（61日間）
- 7) 実施店舗
三善1店舗
- 8) 対象商品
全1,003品：刺身・寿司・牛乳・豆腐・惣菜等の生活必需品や地元商品を対象とする。
- 8) 寄付先団体
社会福祉法人掛川市社会福祉協議会
- 9) 告知時使用販促物

①店内ポスター



②店内使用スポッター



3. 寄附金付き未利用食品モデル実証実験

1. 実証実験

1) メーカー様 WEB 説明会開催

日 時：①2022年8月2日 10:30～12:00

②2022年8月3日 13:30～15:00

参加者：大手メーカー様・地元メーカー様 合計53名

議 題：①2021年度実施内容説明

②2022年後実施内容説明

③質疑応答

2) 事前検討会開催

①サンプラザ事前検討会

日時：2022年8月16日 14時30分～16時00分

【出席者】

■検討委員（敬称略）

高知県 文化スポーツ部 県民生活課 消費生活・NPO担当 チーフ 横山浩司

高知県公立大学法人 高知県立大学 地域教育研究センター センター長 清原泰治

社会福祉法人 高知県社会福祉協議会 高知県ボランティア・NPO センター 武田真木子

高知あいあいネット・フードバンク高知 代表 青木美紀

消費者代表 森木めぐみ

■企画主体者（敬称略）

株式会社サンプラザ 商品部 部長 長山真也

株式会社サンプラザ 商品部 食肉バイヤー 小尻長司

株式会社サンプラザ 地域密着活動推進役 東森歩（※）

※ファン度レイジング・マーケティング代表

株式会社高知広告センター 町田 ※店内外掲示ポスター、POP、テレビCMなど制作会社

■オブザーバー（敬称略）

農林水産省 大臣官房新事業・食品産業部 外食・食文化課

食品ロス・リサイクル対策室 室長 森幸子

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課

食品ロス・リサイクル対策室 課長補佐 岸田 学

農林水産省 大臣官房新事業・食品産業部 外食・食文化課

食品ロス・リサイクル対策室 食品ロス削減・リサイクル班 調査員 浅田文哉

農林水産省 中国四国農政局 経営・事業支援部 食品企業課 食品リサイクル係 秋永史子

農林水産省 中国四国農政局 経営・事業支援部 食品企業課 食品リサイクル係 深澤悠佑

【議題】

1、開会・会議概要説明

2、農林水産省挨拶

同省食品ロス・リサイクル対策室 森幸子

3、企画主体者挨拶

株式会社サンブラザ 長山真也

4、出席者自己紹介

5、昨年実施報告・本年計画説明①企画概要全体説明

(株)サンブラザ長山より、上記、寄附金付き未利用食品モデル概要説明

①2021 年度食品ロス削減とフードバンク活動支援につなげる寄付つき商品販売企画の取り組み
内容と結果について振り返り

②2022 年度食品ロス削減とフードバンク活動支援につなげる寄付つき商品販売企画の取り組み
予定内容について説明

③2022 年度新たに取り組む内容

・静岡県掛川市スーパーサンゼンの参画

他府県で実施する為に、CGC グループの三善様へ東森様より依頼・快諾頂く

・メーカー向けへの説明会の実施

8/2・8/3 に WEB 説明会を実施し、総勢 53 名の参加を頂いた。

②三善事前検討会

日時：2022 年 8 月 18 日（木） 16 時 00 分～17 時 35 分

1、参加者

①検討委員

掛川市役所 環境政策課 ごみ減量推進係 主事 伊藤 慎

社会福祉法人 掛川市社会福祉協議会 地域支援係 大澤 彩季

消費者代表（掛川市地域おこし協力隊 隊員） 芳川 翠

②株式会社三善

株式会社三善 代表取締役社長 川合 利弘

株式会社三善 専務取締役 川合 政典

③企画アドバイザー

ファン度レイジング・マーケティング 代表東森 歩

④広報物制作（オンラインにて参加）

株式会社高知広告センター 営業局メディア・アカウント本部 町田 千晴ビジュアルデザイン 2 部

⑤オブザーバー（オンラインにて参加）

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課

食品ロス・リサイクル対策室 室長 森 幸子

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課

食品ロス・リサイクル対策室 食品ロス削減・リサイクル班 調査員 浅田 文俊

株式会社 サンブラザ 商品部 部長 長山 真也

■議題

1、開催挨拶

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課 食品ロス・リサイクル対策室
室長 森幸子様から開会挨拶。

株式会社 三善 代表取締役社長 川合利弘から開会挨拶。

2、参加者紹介

・参加者名簿に沿って自己紹介。

3、検討課題

- ①2021 年度の食品ロス削減とフードバンク活動支援につなげる寄付つき商品販売企画の取り組みの概要について説明・報告。（企画概要資料に記載された内容の説明者は議事進行役の東森）
- ②2021 年度の取り組みについて検討委員の皆さまからの質問や意見を出してもらう。
- ③2022 年度の取り組み計画について
- ④2022 年度の取り組みについて検討委員の皆さまからの質問や意見を出してもらう。
- ⑤今後の準備の進め方について（東森より説明）

3）事後検討会開催

①サンプラザ事後検討会

日時：2022年12月6日 10時30分～12時00分

【出席者】

■検討委員

高知県 文化スポーツ部 県民生活課 チーフ（消費生活・NPO 担当） 横山浩司
高知県公立大学法人 高知県立大学 地域教育研究センター センター長 清原泰治
社会福祉法人 高知県社会福祉協議会 ボランティア・NPO センター所長 半田雅典
一般社団法人 高知あいあいネット・フードバンク高知 代表 青木美紀
消費者代表 森木めぐみ

■企画主体者

株式会社サンプラザ 商品部 部長 長山真也
株式会社サンプラザ 商品部 食肉バイヤー 小尻長司
ファン度レイジング・マーケティング代表 東森歩
株式会社高知広告センター 町田千春（※）
※店内外掲示ポスター、POP、テレビ CM など制作会社

■オブザーバー

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課
食品ロス・リサイクル対策室 室長 森幸子
農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課
食品ロス・リサイクル対策室 食品ロス削減・リサイクル班 課長補佐 岸田学
農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課
食品ロス・リサイクル対策室 食品ロス削減・リサイクル班 調査員 浅田文俊

【議題】

1、開会・配布資料説明

2、出席者自己紹介

3、農林水産省挨拶 同省食品ロス・リサイクル対策室 森幸子

4、実績報告・意見交換

・株式会社サンプラザ長山より

2022年10月1日（土）から11月13日（日）まで実施の食品ロス削減とフードバンク活動支援
につなげる寄付つき商品販売企画の概要と実績・結果報告

・活動報告 ・数値報告 ・フードドライブ実施報告

・ファン度レイジング・マーケティング 東森代表より

株式会社三善（静岡県掛川市）「食品ロス削減とフードバンク活動につなげる寄付つき商品販売
企画」数値結果報告（速報値に基づく）

・活動報告 ・数値報告 ・意見交換

5、閉会挨拶：食品ロス・リサイクル対策室 森幸子様

②サンゼン事後事業検討会

日時：2022年12月16日（金）午後2時00分～午後3時30分

【出席者】

■検討委員

掛川市 協働環境部 環境政策課 ごみ減量推進係 伊藤 慎

社会福祉法人 掛川市社会福祉協議会 地域支援係 大澤 彩季

消費者代表 芳川 翠

■企画実施者

株式会社三善 代表取締役社長 川合 利弘

株式会社三善 店長兼洋日配担当 近藤 裕之

ファン度レイジング・マーケティング 代表 東森 歩

株式会社サンプラザ 商品部部長 長山 真也

株式会社高知広告センター 町田 千晴（※）

※サンゼン店舗で使用するメインポスターのデザインを担当。

■オブザーバー

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課

食品ロス・リサイクル対策室 室長 森 幸子

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課

食品ロス・リサイクル対策室 食品ロス削減・リサイクル班 課長補佐 岸田 学

農林水産省 大臣官房 新事業・食品産業部 外食・食文化課

食品ロス・リサイクル対策室 食品ロス削減・リサイクル班 調査員 浅田 文俊

【議題】

1、開会・配布資料説明

2、出席者自己紹介

3、農林水産省挨拶 同省食品ロス・リサイクル対策室 森 幸子

4、実績報告・意見交換

1) 2022 年 10 月 1 日（土）から 11 月 30 日（水）まで実施の食品ロス削減とフードバンク活動支援につなげる寄付つき商品販売企画の概要と実績・成果報告。

2) 委員の皆様からの質疑応答、意見交換。

- ①掛川市環境政策課作成の「手前どり」POP は市内にある他スーパー18 店舗に送付しました。
- ②掛川市のホームページや市の公式 LINE にも「手前どり」について掲載している。
- ③寄付つき商品販売商品を使ったメニュー（献立）を店舗内で知らせてみては。
- ④掛川市の倉見の住民からの声として・「手前どり」POP については販売者都合かと認識していたが、今回の POP をみて食品ロス削減のために取り組んでいることが理解できた。
- ⑤サンゼン店舗内に設置のフードドライブボックスに興味を持っていた人が多かった。
- ⑥今回の企画は購買のきっかけになったが、商品の表面にシールがたくさんになってしまっているように見える。改善の必要があるように感じる。
- ⑦フードドライブボックスへの食品寄付実績は多かった。賞味期限が切れているものがあった。
- ⑧この企画が終了した後、サンゼンにおける食品ロスに関する動向はどうなっているか？
→2022 年 12 月や年始 1 月の廃棄ロス（惣菜の重量）の廃棄重量を計測してみてもは。
- ⑩食品ロスを減らす加減について品揃えが少なくなると、消費者の不満が募る。食品ロスにはなるが、ある一定の品揃えは必要。
- ⑪掛川市では食品ロス削減の標語を 2023 年 1 月 20 日まで募集している。
- ⑫取り組み結果の数値について「値引きプラス 1 円」が食品ロス（廃棄）の減少についてどれだけ影響を与えているのか？を数値で検証することが重要。その検証の視点として「寄付つき商品の比較を実施していない月と比較する」。また、値引き金額の 9 月が大きくなっている理由と 2021 年と 2022 年の 10 月 11 月の対比（前年対比）も実施してみてもどうか。

3) 次回の取り組みに反映したい項目などまとめ。

- ①掛川市制作の「手前どり」POP は企画終了後も継続して売り場に設置する。
- ②2022 年 12 月と 1 月の惣菜部門の廃棄重量を計測して、2022 年 9 月 10 月 11 日の計測結果と比較して検証してみる。
- ③フードドライブボックスは年間 3 から 4 回程度で期間を設定して店内に設置する。次回は 2023 年 3 月から 4 月頃を予定したい。
- ④今回の取り組み結果として現れた数値、「寄付つき商品の販売点数」「寄付金の値引きプラス 1 円の販売点数状況」や「廃棄重量の変化」などから、寄付つき商品販売企画が食品ロス削減にどういった影響や効果を発揮するのか、について検証を行う。

5、 閉会挨拶 農林水産省挨拶 同省食品ロス・リサイクル対策室 浅田 文俊